

高齢社会N G O連携協議会臨時会員総会

日時 平成28年8月17日（水）午後2時～5時

場所 日比谷図書文化館4階スタジオプラス

I 議題

- 1 高連協の活動継続について
- 2 高連協の活動方針・方法について
・会員団体からのチーム提言について
- 3 役員体制について
- 4 事務局設置について
- 5 その他

II 配布資料 略

今後の高連協の活動は、高連協の会員団体からの提言（手上げ方式）に基づき賛同会員を募り、提言団体を中心に具体的活動を展開することとする。

「議題2 高連協の活動方針・方法について ・会員団体からのチーム提言について」より進めてその結果から「議題1 高連協の活動継続について」を議決する。

議題2 高連協の活動方針・方法について

・会員団体からのチーム提言について

会員団体からのチーム（プロジェクト）提言

- ① 政策提言チーム（新地域支援事業における社会参加活動に関する政策提言）

「公益財団法人さわやか福祉財団」からの提言

さわやか福祉財団高橋望氏が趣旨説明。

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

- ② 登録チーム（新地域支援事業における社会参加方策）

「公益財団法人さわやか福祉財団」からの提言

さわやか福祉財団高橋望氏が趣旨説明。

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

- ③ 国際チーム（国際団体との連携）

「AARP」「FOIFA」からの提言

NPOグローバルスカイ理事長升田忠昭氏が趣旨説明

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

- ④ 世代間交流チーム（多世代共生のコミュニティの実現）

「NPO法人 日本世代間交流協会」からの提言

「NPO法人 日本世代間交流協会」会長杉啓以子氏が趣旨説明

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

4チームの提言を承認

議題 1 高連協の活動継続について

上記の 4 チーム提言の承認を得て、高連協の活動継続について

議決：承認挙手。賛成多数で承認。

議決 3 役員体制について

現行の憲章・会則により役員の選任。

役員会

代表 2

樋口恵子代表（高齢社会をよくする女性の会）

堀田力代表（さわやか福祉財団）

理事 8 名

・代表の団体から理事選任

新井倭久子氏（高齢社会をよくする女性の会）

野島卓郎氏（さわやか福祉財団）事務局長

・提言団体からの選任

穂積恒氏（FOIFA）

升田忠昭氏（AARP、GU）

杉啓以子氏（日本世代間交流協会）

・自薦・他薦

黒水恒男氏（社会教育協会）

森保氏（日本産業退職者協会）

岡本憲之氏（JTТА）

監事 2

横田安宏氏

若林健市氏

以上各氏をひとりずつ挙手により承認。

議決 4 事務局設置について

岡本理事が野島卓郎氏を推薦。

拍手にて事務局長に選任。

5 その他

なし

堀田力代表挨拶

樋口代表がやむをえずご欠席で、さびしい思いをいたしておりましたが、この会自体は高連協が新しくしっかりと事業に取り組んでいこうという強い決意を示された、いわば記念すべき再生の日になったと、たいへん頼もしく心強く思っております。天国で心配してい

たであろう吉田さんも、きっとこれで安心できるというふうに思ってくれたことと思います。

みなさま方の熱い思いに敬意を表したいと思います。

この高連協は発足しました時は大変に新鮮で、これから新しい道を切り開いていくんだ、高齢者の社会参加をしっかりと推し進めるんだ、というそういうみなさんの熱い思いが燃えるような、そういう発足当時の団体でありました。

当時はまだ高齢者がだんだん社会から疎外されていく、役割を与えられないやっかいもの扱いされる、そちらのほうに問題点が絞られておりまして、高齢者はどう生きていけばいいんだというさびしさと不安が高齢者を覆っておった。だからこそ、われわれが社会参加して他の世代と協働しながらいい社会を築いていくんだというわれわれの訴えに、多くの方が共鳴して会員になってくださいましたし、出しましたいろんなメッセージにも新鮮さがあり、大きな反響を引き起こしたのだと思います。

われわれの活動がしっかり根を張ってくるにつれ、なんとなくマンネリ感が現われてきた。社会的には医療制度、介護保険制度等々も整備されて、なんとなく高齢者に安心感が出てまいりましたし、世間的には高齢者にサービスしすぎではないか、子育てのほうが無視されているのではないか、そのくらいの声が起こるほどの状況になってきた。

これはわれわれがひとつは望んだことではありますけれども、そこで安心していいのだろうか。高齢者はいまこそ、ますます困っている子育ての世代や格差に悩まされている若い世代をしっかり支える、社会参加のほうをもっともっと今まで以上にがんばって、実現していかなければいけない。そういう段階に入っているのではなろうか。

そういう中で、当初の熱い思いを忘れていたのでは、これは高連協は何のためにあるのだということになってしまう。われわれはどうしていくんだ、ほんとうにやるのかという問いを突き付けられています。それに応えるのはもちろん会員のわれわれしかない。どれだけしっかりみんなでがんばっていく意思があるのか。そのことを確かめようというのが、前の臨時総会で決まった「手挙げ方式」で、いったいどれだけの団体がもう一度しっかり取り組むという気持ちを示すのかということだったと思います。

その答えが本日出た。しっかりやっ払いこうというチームが四つ立ち上がり、高連協のチームとして認められました。われわれが介護保険などの制度で保障されたことによる安心で社会参加していこうという気持ちを失いかけていた、そういう高齢者全体の空気をはねのけて、もう一度、最初の時のように、しっかりわれわれのすべきことをしていこうという決意を示した、そういう日であろうと思います。

実際に世の中で余っているエネルギーは、高齢者にしかない。子どもたちは勉学に追われて疲れており、中年世代は働くことそして格差社会の厳しさに追われて疲れきっている。そういう中でひとりのんびり余生を楽しんでいいような、そういう階層があっていいはずがない。そのことをわれわれの方からしっかり社会に訴え、行動を起こして、あの人たちは社会にとってたいせつな人たち、高齢者がいないとこの社会は成り立たない、子ども

もたちも中年もみんなが思うような社会を、もう一度志を新たにしてみんなで取り組んでいきたいと思います。

よろしく力を合わせてください。

そのあと新役員会。